

文芸先生遺集

五

171  
69  
10



紳書

多波禮草

紺珠

時人傳

耆舊得聞

東海談

閑散餘錄

社復書案

史館雜錄

鄉黨遺聞

省菴手稿

舜水祠堂御用留

後樂園志

樊齋口語

丹慎齋口語

常山紀談

文苑雜纂

張斐與子平書

大竹親役口語

沈張蔣詩文筆語

致祭儀節

一夕夢

李宣同ハ國後より也

柳文も

夢うハ柳文はのよきあくとつま

すとのよ

一章水在林の意儀のよきを傳へる者攀記とは不

きられしに但一以季子を朝廷の長うめざわのよき

ワタリしとよきの通経はうきくも下をもとす

吾の所後と曰ひゆきくに景被の毛子と名ふす

そ温休仁と云ひやうて身先あきてつゝろひんゆ  
へようこまどゐくとやかくとゑーうちふむひくと  
仁らむ

帝ハ根弗ナリノ奉うりされしも

一舞もよき又三る番やと記すゆえまき自由との  
事とひきとひのま

一景頃の天子をふと先づき悪あくし筋にす但し  
朱雀もと狼狽とひこゑち神やとのま  
一米穀と或を解どんとうも或ハ石と川とあるすゆう  
と多島仲田間とひせりす多く其作を一と即ちゆ  
アシク石斛の年つてこちをすくとくせふかす奥村主政すす朱雀も  
小黄（レモン）をくせふかす奥村主政すす朱雀も  
小ちの升の製とこじき／＼がれき／＼がれき／＼がれ  
五十九才すこゝ一ときかる／＼こ中華の升いふ／＼すすば方の

五十九才すこゝま

一サゴヘイと舞もと歌り／＼せあ本麪とこくらむ／＼えこと  
併せて

一多喜宝傳已故す／＼四学の名をかけハ吉をやうそ  
傳志の又とばりをさるは歌のもの初の文も陶あら文も  
うつくし・うれき玉偉う文とほこを慶賀なほちよか  
／＼しきくアキをいとよ舞もと物文藝う文とかえ  
うき／＼のやうもとくろくとしのほほくほくほくほくほく  
舞もと要功と歌能才とくらせせしもとくらせしもとくらせ  
川元もと芳庵もと等ひ／＼とひのま

女神書

壽ちといへん人明ニ其國ニ亡ラカミニ恢復ノ志アリ  
テ此國ニ來シルヲ多戸にてサキ師傳ノ位ヲモテ待ムフニ唐  
土ニテハ昔ノ寿建ノ世ニサセルカト云モアリスハ本ノ世ノ郡縣  
ソテサセリトイへンモアリテソノ說サマクナレド此國ニ來リハジメテ  
封建ノ世ノ風儀トイヘルモノヲ觀ク見テ一コトニ三代ノ聖人法  
マツ有ガタク覓レト語テレント

或人壽ちノモトニスキモノニナビセシオリフシ内多ノコトバニシタガ  
ヒ雞鳴中オキテ父母ノ安否シ問シトスレバ父母イニタオキ玉  
ハズ父安オキ玉フキテキテチテハ内則ノ言ニチガイ侍ルイカヽイ

タシサフランヤト問シニ此國ノ儒家トイヘル人ノカケル文トモシ見テ  
コレホドノ書物ヨミタル人イカナバ義理ヲシルカクハラトキヤトウ  
タガニシガコトバノチガイニテ意味通ゼザルスヘナリト今コソシリタレトテ  
大ニワラハシトゾ壽ちノ通詞高尾某トイヘルモノカクハカタリキ  
カタタ波礼章

一某島かの豆道國、是を讀双幅あとねづくの私小死豆  
のノヤ壽ちハロニテヨリ、その志の私小ヤキモトハ義範  
兼(こう)トシヘカタのふと名義、日を以て記筆傳考便集傳ホのち  
すき

朱印肉 番号

一サイカチノミ 皮共ニサヤフリ  
サキテ入ナリ 一胡麻ノ油 一升シラシメ

一薑 一片 一明バン 三分

一白蠍 五分

一山椒 十粒

一カラエの夷 五十粒

一黃蠍 五分

右弓ニ細林油カキナ炭ノ火ニテソロクセニジルナリ但シ一滴  
水ニ落シ見ルニ油キラズ玉ニ丸ラ吉トス煉サマシツキニ入ゲレ  
歲月ヘルカトヨレ

又何書アラモ先年抜きんとせあると忘セテ

柳澤憲園諱里恭字公義画ニ長ス筆事多有矣の條

色ノ皆ヲ紀ノ被アリ西ニ學テコトニ人物ノ俊色世コレラ考ス  
水ニ漬シカケ用テ揮洗一ドモ落スレバシ

又時ノ序

舞水先生ヲ聘シ師トシ學ビタニ其禮遇最厚ク其賀壽  
ノ日ナドニハ 公親ラ其廬ニ至リ祝セラル門前數歩ニメ輿  
ヲ下リタニヒシトゾ先生モ甚感ソ古ヘヨリ三公ノ尊ニソ歩ソ處  
士ノ廬ニ至ルモノヲ聞カズトウサレタリ又 公ノ嗣シ兄ノ子ニ定  
メ國ヲ讓リテ跡も泰伯ノ賢ニ勝リタモトモウシ奉レリ平日  
公ヨリ賜與シ玉フ一餽多ナリシドモ常ニ定マリテノ御合カハ白

銀百枚外ニ六尺四人此給銀廿枚ナリ水戸ニテノ宅地ハ御官  
ノ下今石野源左衛門ノ宅地又鳥居瀬兵衛ノ三十九ノ  
宅ナリトモ云フ一年先生ノ孫毓仁長崎ニ来リシキ 公ノ賚  
賜甚厚カリケレハ其銀ニテ田宅ヲ買ヒ其家豊カニ糊口セル  
ト實ニ公ノ厚恩ナレハコレヲ謝セシ為ニ其賜ハシ白銀ノ目録ヲ  
装潢メ床上ニカケオキ日ニ拜セリト再来ノ時佐ニ介三郎ニ  
該セリ 史館  
旧記 先生没後瑞應山ニ葬リ 公自テ其墓碑ニ題ソ  
明徴君子朱子之墓ト遊バサシタリ又其文集ヲ梓行メ卷首六  
門人位三位權中納言 御諱 編集ト遊バサル凡ワ敕撰ノ書ニアラ  
ズメ卷首ニ官銜ヲ書きスルハナキ事ナシ也 公ノ恩召アリテ特

ニ如此ニハ記シタニフナリ其祠堂ハ駒之龍亭ニアリテ奉祀アリシガ  
彼亭罹災ノ後ニ水戸ノ今田見小路ノ地ニ建玉ヒ奉祀今ニ至リ  
テ絶ル事ナシ 富田長洲云一年舜水瑞祐一至ラシ道ニテ馬子ノ名ヲ聞ハシニ  
文次郎ト答ヘシヲ舜水ブンツヒマラトヒイテ文次郎トハ言サリシトナ  
リ檜山某ハ舜水ニ從ヒテ唐音ヲ善ク熟セリ後ニ心越ノ詞經セラ聞ヒテ大ニ通セヌ事  
ヲシ言ヒシトナリ又小池友貿一日心越ヲ訪ラヒシヅラヒシト云テ障チヲ開ケリ梅花トテ  
ナリサド梅花ハムイハウト云イテヅラ  
シトハ云ハズ誤リアベシ

延寶中駒之龍邸ニテ釋奠及祠堂墓祭儀節ヲ講習セラル  
釋奠習禮儀一冊彰考館ニアリ又舜水文集ニモ見ヘタリ此  
時製セラレシ諸器簠簋以下ノ物皆今ニアリ大成殿ノ小形モア  
リ其因ハ朱氏談待ニ見ヘタリ 寛政中幕府コノ因ヲ以テ昌平学ノ  
聖堂ヲ今ノ如ク改メ作テセラル 其時祝  
奠諸員

初獻官

大竹 檜衛門

亞獻官

藤井紋大夫

終獻官

佐藤彦三郎

少獻官

中澤 因書  
兒玉 銳部

莊 半彌

陪祭官

門奈次郎吉

佐野市之允

監禮

鶴殿六大夫

手塚大郎衛門

吉弘元常

典儀

藤井次郎大夫

五十川 刚伯  
服部 其衰

由中傳齋

中村真庵

祝

人見道設

贊引

中村春帆

岡部道仙

今井有順

辻 興庵

今井弘濟

高尾彌市

小柳津牛介

劍持十内

接帛并接爵

司帛

武田 篠生  
佐川 新吉  
勝源五衛門  
兼平塚太郎  
白石彌五郎  
神代金壹  
秋山 久稟

柴田五郎

大串元善

司魯

宮崎庄左衛門

司尊

信太平内  
近藤清方

少室室仪主

高倉四郎兵衛

逸見新七

秋山久積

司俎司登司銅

篠田玄茂

龜田玄悅

司籩籩

司籩

櫻井武左衛門  
宍本左大夫  
海野三衛門  
秋元佐立衛門  
富岡六助  
馬場市良多

饌盤

宮本源六

小野庄兵衛

司香燭

三井秀伯

神代金大夫

堂上堂下陳設小野庄兵衛

座次

白石彌五衛門

墨洗司勺司中籠

〔三悦  
宗圓〕

盥盆

〔意誠  
花月〕

以上

古考舊得聞

一明ノ事多我國ノ文ヲ觀テ曰日本人ノ被ノ字ヲ用ルヲシラス  
ト是ニ由テ觀ハ実ニ舜水ノ言ノ如シ譬へ見木氏童子問為何所何  
ト書ヘキナルニ為何被何ト書ハ大ナル誤ナリ畢竟為ト被トハ因

シ字義ニテ為ラルト訓シ被ラタメト訓シテモ義理通スルナリ為  
字ヲ置ナス所ノ字与見ノ字シ用フシ世ノ大儒先生多ク誤  
来レリ仁齋先生ノ所謂忘填トハ如此フラ云フナルシ

秀軒遺稿

朱舜水ハ明向姓ナリ吾國萬治二年ニ明末ノ乱ヲ避テ長  
崎ニ来ル後ニ水戸公ノ聘ニ應ソ水戸ニ至レリ文集アリ水  
戸公父子ノ遷ナリ今世ニ行ハリ朱子家訓ハアノ人カノ國ヨ  
リ持來シトイフ然レヒ朱子文集、載セス朱門ノ人トモ  
ソノ沙汰ナキヲ以テ偽作ナリトイフ人アリ予思フニ徵明カ  
法帖ニモエノ家訓アリ中華ニテハ久シク傳來セント見工

且ソノ言名教、助ケアリ朱子ノ作トシテ子弟ニ教ルモ何ノ  
害アラン。○安東省庵「道學ノキリ禄三百石ヲ食ム初舜水亨國ニ至リシ時俸禄ノ半ヲ  
贈テ奉養シ就テ学ヒクリトナシ」今時ハ左程ニ尊信ス(キ大徳ノ師キナク又考  
因子序ニテ閑教餘録)

秀軒遺稿錄

一碑修墓誌之役ト寺廟との清言ト寺廟と召出立候ト  
名主の碑向し御とろく子朱子ト寺廟と同記トシ  
右主の碑は文恭之謚也召出ノ事多加之恐  
テも謹候とかく清言と寺廟と  
か紙ミシキて久考え僅すきと清言と寺廟と同記トシ  
其先より既ニモ清稿メニ寺廟と召出立候トシ  
抵々寺廟の清言と寺廟と召出立候トシ

か又内にまくあひのアラタモ申すみる事やむと云ふ事  
久ミモ文菴う信少ヒヤシマシヒニうじをとすやは  
仲ハは方令清ねりゆゑりおのトセヒトシテスルモ

ナリナ

ア後多々多

ナニナニナ

舜水老人八十賀所賜

謹具

扶老

壽麪

壹條

壹盤

壽燭

壽包子

貳樹

蕉裘

壹百團

壹領

甘吉

貳百顆

龜鶴屏

壹座

天鵝

壹雙

和扇

養老濕  
浦島子

貳握

蓬萊盤

壹副

白金

貳拾枚

壽酒

朋樽

己未仲冬十有二日

源光一頓首拜

文史館譜錄

舞多修像の幅 以て分入

上卷

而山極至多と舞多舞多修像とくらじめとめて舞多

舞多舞多舞多舞多舞多舞多舞多舞多舞多舞多

舞多舞多舞多舞多舞多舞多舞多舞多舞多舞多

白井 挑

甲封新ノ紙

一先以勘ぐるも、おとこ乗るよし又若羽茎と云ひ  
とす不ふ猶子守八幡宮社ノ定地に在る石を羽茎と  
云ふか不知。嘉慶元年伊守詔書より。予外去集にてる  
場所場所と云ふを讀むと考究御事と傳う。此の事の  
御所は伊守と云ふと考究に行ふた。どうぞ是をうちもか  
不候勘うるをせり。お市東方の角田の場所  
又かあ跡勘うるをせり。以後御内向と安田の場所  
を知らぬ。初堂で名付とある。仰せおもはる所をま  
るを知らぬ。とてお市東方の角田の場所

人才ノ櫻久乃所ノモニシテヨリナラニテお急く  
人ニシテアセキトシテアリニテ又文活藝五廟トキ風俗  
並御うる事ニアリム私ナガミ政主ムヘタニテ  
此後度々多事アリ次第行持御手次ニ既く及承  
はまニ首尾乃キ師傳ニ古力有ヒ一入りセラリム

正徳 二年 テトヨサフ

立人 球翁

足立家

五代後主

參多ノ神ニ初ハコト御寺邸中アリ元祐十六年十一月二十  
日駒の火災、後御唐物方ニアリ奉祀ノ主モナケシハ  
戸へ下シ御矢弓方ニアツカリシニ正徳三年閏五月廿八日今  
祠モツ立安積院ノ御奉事ニテ四代一セラ以テ御立セラ  
ル  
名御黨也

上野福島原ノ隱居如水ト云老人近十日ニテ存在セリ心越禪師ニ心安ク度ニ參會セリ禪  
師モ大抵和諧ヲツカヘトナリ翠水先生ノ事ツイカオモハレケニヨクハイハサリシトナン真言上人宋  
聞ノヨシ移セタリ翠水先生之本も未だ能記セラ

上野家  
文書卷之三

文釋 本序文

信日多弘成アキラシタカヒコけじく先多義鄙陋近上都也併  
命ニ年事ハ多か多あらんかとて是故とぞとくの山中  
老猿と云ひ其名号が如也改別年號是の後  
世に傳ゆるもるを有するは多矣と本多義と曰へば元  
必すおれめ政事じし代りててら室町ムロマツ唐本  
多裕安久代と號と申す者也多所と云ふ者也傳  
中あらじと細々つけり。年號も亦號と呼ぶ  
まもも一のトとひじ

一再翠玉玉手を多ミ上ト。代えし京ノ御庵也  
トじはじは表紙と多代故多分内と一見。代子

大さき後天年を度か。か紙のすみ縁ふ又事ふとち  
ニミ仰そと代ふとし

一書もと彦ギハ俗ニアレ度サヒ一西玉入シモ又甚  
く不穏とぞせと云化板面カイバンメイとぞ。サギ化羊と云  
卦ハヒ夜と影跋。寔之也。文義也と云。此紙は今  
核すハれ行十をすラ正トシと云。主と云ひテテ主と  
主と云。年画ハ皆能取之モ一字も誤フを云。い  
麻呂みとし

心喪集御板行のす先をとす。首をとしと之を御歎七  
十五年來也。時年三十歳也。主ノ板也。上をす。

也ナ改メテ右ノ事ニキヤト先モニ改メ松  
子モ又松也又子モ上ノ佐東白毛御奈役

先支ノ右

左様、既に左上左松之御津

ノノ里

左东右庵

鳥移多々多様  
多々多

左东右庵  
年号

守約通

舞多幸酒丸

西浦二壬辰歲建立

祠堂誌貢

工正吉田日祖而也

副正

日祖

松家主事

既正日祖而也平治而

日祖吉田而也市村樟示

右建主之時代方

左舊附存行

津村元吉文

肇年只博

林 俊之

南少ひ年以方

左庭久代

源助八右衛門

平戸昌吉平

年号

以上

正徳二年癸巳閏五月二十日初夏并歲在甲子雨山先生  
之子以自骨多加言宣之于方。其事所才更代後理  
八事之志也因代不取其舊名同署引稿也。

一  
舞多先生画像

三幅

右之為舞多謹奉以西畫者瘦代少羽量之納  
良多殊也至是之謂羽量、少羽量入之後也  
伊有少羽量者也。伊有少羽量者也。伊有少羽量者也。  
あり肩に付せし

享和元年辛卯六月既望、南人左之與多喜之  
は故而重作之矣。多喜之南人左之與多喜之矣  
ウセハシ敏政とくノ制教傳以涉模倣、右之方以  
伊有少羽量之功勞、ウセハシ敏政之恩、左之與多喜  
ウセハシ敏政とくノ制教傳以涉模倣、右之方以  
伊有少羽量之功勞、ウセハシ敏政之恩、左之與多喜  
ウセハシ敏政とくノ制教傳以涉模倣、右之方以

ナリ

多喜之南人左之

ウセハシ敏政とくノ制教傳以涉模倣、右之方以

ナリ

ウニモモリハカツカシムルシテラシタクシテアシタ

セシタリトモシテラシタクシテアシタ

ソシテシテラシタクシテアシタ

シテラシタクシテアシタ

カズハシテラシタクシテアシタ

カズハシテラシタクシテアシタ

カズハシテラシタクシテアシタ

カズハシテラシタクシテアシタ

カヌキ

一六日甲子ノ卯方トカシテ色サリ方有ル

一三九玄武ノ緑ニシツ

四者一

瑞鳥沙丁

カズハシテラシタクシテアシタ

カズハシテラシタクシテアシタ

カズハシテラシタクシテアシタ

金鳥

カズハシテラシタクシテアシタ

松風雲雀

カズハシテラシタクシテアシタ

モウカズハシテラシタクシテアシタ

モウカズハシテラシタクシテアシタ

モウカズハシテラシタクシテアシタ

モウカズハシテラシタクシテアシタ

モウカズハシテラシタクシテアシタ

モウカズハシテラシタクシテアシタ

うらやむ心と忙と上り下りするよしと年を重ねて  
西と了をあまめに氣へ渡るが故又は有事不意の事  
波動あれど然不思議と前より秀才を一脉 てとくれ  
文系のことを承り文修了

一ウ菴子縁の三才抄も想ひ想ひ、後は然らず矣。余抄も想ひ想  
うらやむ引入ウツクシ 僧礼了

### ウ祝文

### 維

享和元年歲次辛酉六月丙午朔越五日庚戌  
權中納言從三位源治保遣史臣立原萬敢昭告

### 于

文恭朱先生祠堂曩者我

大將軍聞吾

先君義公嘗有志於建學宮謁訪 先生以明國制  
度先生暗記默識細大不遺 口講指畫以誨梓

人模倣本式約而小之殿臺廊廡莫悉具其所刻木  
様并在水戶城府庫有旨求 觀乃敢呈覽遍

會其令有司更新昌平阪孔廟專據

觀於是

大將軍柱駕彷徨嘉制度之始備嘆

義公之用

心執政傳旨用相慶諭是則斯文之大慶非獨敬

邑之私幸、伏惟先生學德之隆名節之全實為吾先君師其所以使先生日進於高明光大之域者啓沃薰陶蓋亦有道至如博文巧思特其餘耳雖然先生既去西土而蹈東海固不求聞達於當世而興學設教國家大典深有望於本邦則今日之事亦

先生之所垂聞爰陳羞酌敢伸虔告尚

饗

乃舞乃蕡乃翫乃

江戸砾川邸後東園ノ石橋ヲ渡月橋ト稱ス舞水

橋下如半月移水如滿月

水車

因人指因因人造之

古後乐园志

舞多是日大明ノ俗碑ヲ建ルニ必ス十二月庚申日ヲ以テス如シ庚申ノ日十ヶ日ハ此月限り日ヲ擇テ建ツト人見樊齊ニ詣リキ

文恭先生の本係と形工せりも前田殿内さんとあ  
内細工とよくちひめやあつるや 古のくらふあゆみ

七時人さうと云 丹波守口

吟詠社主の朱之瑜との事 文部省支那局の  
粟我念を(は)じて日本にぼうとと並び柳川  
代文書あ東有菴主作のまことけ文書  
見了とひそくゆきと名を了  
西行山経後

寧相上公帖  
謹具

金扇壹匣  
磁壺壹具  
龍眼壹封  
棗頭壹封  
藕粉壹封  
湖筆壹匣  
紫徽墨壹匣  
火腿壹蹄

奉申

菲敬

晚學生朱毓仁頓首拜

世子大人帖

謹具

金扇壹柄

磁壺壹具

魁束壹封

藕粉壹封

奉申

菲敬

晚生朱毓仁頓首拜

通家眷小侄朱毓仁

寄今井小四郎書  
夏間幸晤愧乏疑周罪罪想老叔榮旋一路迪吉  
併近來起居復泰不察可知欣慰者甚寄托澄  
一師太兵左衛門金伯片小侄真俱以收明蒙垂愛  
銘刻五內更知所囑來貨之言其踰骨肉非口頰  
所能謝也吾祖所責誠為切當小侄不能奉倚有  
負孝道小侄真天地間之罪人也但情有可原一  
者不知本國法度一者筭筭寡母在家未曾稟明

然竟留此地實為心歎此情此苦非特老叔澄一  
師太所知皇天后土亦所鑒察今欲在于十二月  
間附廣東船回唐歸訴吾母反覆詳明或小侄自  
來或打發舍弟過來侍奉老祖以全天倫少展孝  
心次不謬言望老叔于先祖處委曲代言臨楮  
不勝涕泣之至

古文苑雜錄

董其昌

崇禎二年

楚瑞朱先子恥食虜

粟而逃亡海外尤夷言

之是亞爾謂凌定之松

柏年

有玄貞者昔者朱先子之弟

子今其家貧甚已有銅床

而猶苦學不輟信手 貴邪

之多賢也

張斐書

舞文先生所教之次。考之云。仍承<sup>ウタク</sup>大半<sup>ウタク</sup>。

古今新舊事十而八九。有<sup>アリ</sup>之<sup>アリ</sup>。

大半<sup>ウタク</sup>語

沈克累

小生姓下川。名三省。字宗魯。嘗事朱先生受業聞道。高明與先生同鄉。今接芝顏。覩如見先生。幸甚幸甚。

小弟乃唐山才疎學淺之士。聞宰相上公招賢礼士。乃貴國之孟嘗君也。其才高學廣。令人不可窺測。朱先生雖係同鄉。然其學聞淵深。第輩庸才。不敢比擬。今承年兄將天比地。何以克當。年兄親炙其道業。如得洙泗真傳。洵貴國之出類拔萃者也。  
元善

前來與張兄接話。是故不能奉承清談。觀所與三

省對問者。謙下退托。實可謂厚德矣。善亦童稚而及見朱先生威儀。今遇高明。猶挽往日而回。幸孔幸孔。

弟實唐山無才之士。年四乃貴國挺秀之才。天付英靈。何必徒師負笈。而尋章摘句哉。况朱先生威儀已兄曾親見。一摹擬焉。即是矣。年兄才高識廣。學問充足。而何常師之有哉。弟實庸才。今接清誨。茅塞頓開。恍如撥雲霧而覩青天矣。

蔣挺字明

喪亂之間。艱難萬狀。猶勵其義。不受彼祿。誠四海

之間為士者。可趨下風而襲流芳。其稱先帝者。崇禎皇帝乎。弘光隆武之主乎。監國魯王乎。

一治一亂。雖云天意。揆亂反正。實由人事。此時弟絕廿五六七。三年之事也。弟心越年尚幼。其稱先帝者。于崇禎皇上之十七年入泮也。于弘光皇上之初年。即受監道事。即隆武皇上之初年也。言之不忍。不敢問對。故聞朱夫子事實所羨慕。贈對以表之。一片孤忠炳日月。滿腔大義塞乾坤。

老爺曾治何經乎。就何人受業乎。

小弟賤弟兄多承雅愛。何敢以此稱呼。曾治易經。受

業于嘉績孫老師。即與楚璵朱老先生相交甚善。

右沈張蔣詩文筆語

天和癸亥七月十二日辛巳我  
相公祭大明故舜水朱之瑜墓因賜謚文恭先生  
通會古禮儀節酌宜

盥洗所

若林善也

着道服

着道服

着麻肩衣袴

着布衣

着布衣

待太刀

陳設

楊清友

今井十四郎

着道服

着道服

着麻肩衣袴

着布衣

着布衣

待太刀

祝

執事

中村新八

着道服

着道服

着麻肩衣袴

着布衣

着布衣

待太刀

司鑄

鶴駿平七

着道服

着道服

着麻肩衣袴

着布衣

着布衣

待太刀

接爵

肥田十藏

着布衣

前一日

掃墓除道

黎明奠牲醴庶品于墓前

陳設圖

墓

少牢  
俎用

園  
稷  
太羹  
盃

香案  
燭

拜位

酒  
御  
御  
酒  
注

器

靈輿  
重會古斂  
目公祭大  
天味  
癸亥十一  
日辛未  
祭文  
祝位

敬  
禮  
書

卯刻 相公自太田旅館至瑞龍山憩館著烏帽子  
望墓而靈畢至墓前祝及諸執事以序就位 相公  
就拜位再拜跪焚香起至香案北之卓前執事一人  
執盃一人執酒注進向 相公之右 相公跪執盃  
盛酒醉于墓左畢又執盃盛酒頻奠三獻復位跪祝  
就祝位讀祭文曰 綜

天和三年歲次癸亥七月庚申朔越十有二日辛巳  
水戶侯參議從三位兼行右近衛權中源光一  
以牲醴粢盛之奠致祭于

明徵士故舜水朱先生之靈曰嗚呼

先生道德坤厚才望崧高生于明季之衰遭陽九之

厄危行砥節迎蹇隱居

鶴書遠徵確乎不拔

二字子  
身陷賊窟守正不移流離轉蓬經幾年所衣冠幕  
古未曾變夷歐血嘗贍至誠無息弢光肥遜謝恩  
遠辭鼓翼南溟奮鱗東海風颸雪虐義氣益堅寬  
文乙巳夏六月惠然寓我我茲師資終日諱々論  
文講禮嗚呼

先生博学強記靡事不知起庵聞蒙孜孜善誘數我

未半天不假耳去歲夏初奄忽長逝嗚呼

先生生有懿行死不可無美謚古言曰道德博聞曰

文執事堅固曰恭蓋

先生之謂乎故謚曰

文恭肅據哀誠敢告

塋墓嗚呼哀哉伏尚

先生之靈

來饗

讀畢置祭文于卓上祝復位

相公再拜送神祝梵

祝文礼畢

貞享元年甲子 命構文恭先生祠堂于蒲田  
別莊十二月十三日甲辰遷主於堂平明

上公束帶詣堂親舉祭祀

盥洗

吉弘左介  
佐介三郎

著布衣

陳設

今井小四郎  
楊清友

著布衣

十野庄之介

著素袍

祝

今井小四郎

著布衣持太刀

執事

木村權衛門  
朝倉清七

著布衣持御刀

司尊

内藤甚平

著布衣

接疋接帛

人見又左衛門

著布衣

具饌司爵司帛

加治左大夫  
三木幾之允

著布衣

傳饌

丸山玄平  
少野庄之介

著素袍

樂

笙

葦篥

儀節

奉主人廟

奏樂

陳祭器

具牲

執事者序

立

樂止

上公入門盥洗 階下揖 奏樂 至香案前上香  
三拜降神 酒一揖 離拜位東面立 奠茶  
具饌 詣香案前跪上香 奠三獻 蔦帛  
樂止 諸執事皆跪 祝讀祝曰

維

日本貞享元年歲次甲子十二月壬辰朔越十三日  
甲辰參議從三位兼行右近衛中將源光朝臣謹  
以潔牲柔毛粢盛醴齊致祭于  
明徵君文恭朱先生曰嗚呼  
先生明之遺民避難乘檣來止

秋津寢寐憂國老淚霑巾衡門常杜簞瓢樂貧韜光  
晦迹德必有隣天下所仰衆星拱辰既見旣遇  
真希世人溫然其聲嚴然其身威容堂堂文質  
彬彬學貫古今思出風塵道德循備家寶國珍  
亟丈師事恭禮彙賓嗚呼哀哉齒超八旬遽爾  
捐館今及三春情所不忍結不能伸相攸構廟  
輪奐維新簠簋籩豆云設云陳牲醴粢盛克祀  
克禋敢告微誠焚香參

神  
祿  
至香案前上香三拜

上饗山文載常山文集

讀畢 奏樂 倚伏拜興平身 離拜位東西立  
執事皆拜

上公詣公案前俯伏拜興平身下堂階下揖正面立  
揖 樂止 楚祝瘞帛不禮畢 不趨軒席如跡歸

貞享二年乙丑四月十八日丁未

上公詣先生祠堂修祭

盥洗

附司爵

吉弘左介佐三郎

著布衣

陳設

今井小四郎楊清友

著布衣

祝

今井小四郎

著素袍

執事

木村權衛門

著布衣

持太刀

稻澤三郎衛門

著布衣

持刀

司尊

内藤甚平

著布衣

接爵奠饌

人見又左衛門

著布衣

具饌傳爵

下河邊軍藏

著布衣

省牲察饌

三木幾之丞

著布衣

儀節

丸山雲平

著布衣

上公入門盥洗

階下揖

至香案前上香三拜

陳設祭器 具牲 執事者序立

執事者序立

上公入門盥洗

階下揖

至香案前上香三拜

降神 酔酒一揖 離拜位東面立 奠茶 具饌  
詣香案前跪上香 奠三獻 諸執事皆跪 祝讀  
祝曰

維

貞享二年歲次乙丑四月朔庚寅越十八日丁未  
參議從三位右近衛權中將源朝臣光一敢昭告  
于

明故徵士文恭朱先生歲序遷易諱日復臨不勝感  
慨敢以清酌庶羞之奠祇致祭事尚

饗

讀畢

俯伏拜興平身

離拜位東面立

執事皆

拜

上公詣香案前俯伏拜興平身下堂階下揖正面立

揖 梵祝 礼畢

貞享三年丙寅四月十八日辛未

上公詣先生祠堂修祭

執事

陳設

盥洗

今井小四郎  
佐々木之介  
安積角兵衛

布素袍衣

司爵司帛 吉弘左今 布衣

司尊

内藤甚平

布衣

祝

今井小四郎

具饌接爵接帛

加治左大夫  
庄八九郎

布衣

奠饌奠爵奠帛

人見又左少  
布衣

布衣

司饌

丹藤内  
小野庄之介

儀節

陳設祭器

具牲

執事者再拜序立

上公入門盥洗

階下揖

至香案前上香三拜降

神醉酒一揖離祥位東面立

奠茶

具饌

詣

香案前跪上香

奠三獻

薦帛

諸執事皆跪

讀祝畢 諸執事皆起立

上公俯伏拜興平身下堂階下揖正面立揖 焚祝

瘞帛 執事皆拜 礼畢

元祿元年戊辰四月十八日庚申

上公使藤井德昭代詣先生祠堂修祭

執事

楊清友

陳設

今井少四郎  
少野宗三郎  
浅沼四郎八

布衣

盥洗

司爵

吉弘左今 布衣

司尊

安積角兵衛 布衣

司帛

中村新八  
鶴飼金平

布衣

具饌傳爵

川津村家  
萩原政重

布衣 素袍

接爵奠饌

人見又左衛門 布衣

祝

今井少四郎

省牲監饌

小野宗三郎

儀節

浅沼四郎

陳設祭器

具牲

執事者拜序立

祭主入門盥

洗 階下揖 登自東階至香案前上香降神酌酒一  
揖離拜位東西立奠茶 具饌 詣香案前跪 奠  
三獻 諸執事皆跪 祝讀祝畢 俯伏拜興拜興  
平身 下階 階下揖 梵祝瘞帛 執事皆揖  
禮畢

元祿二年己巳四月十八日甲申

上公使白井信胤代詣先生祠堂修祭

陳設

安積角兵衛

布衣

小野宗三郎

素袍

執事

淺沼四郎八  
服部新助

素袍

### 盥洗

中村新八  
布衣

素袍

### 司爵

内藤甚平  
布衣

素袍

### 司尊

津田兵左  
布衣

素袍

### 司帛

小野宗三郎  
中山内膳

素袍

### 傳饌傳爵

朝比奈政之介  
浅沼四郎八

素袍

### 奠饌接爵接帛

吉弘左今  
布衣

素袍

### 省牲盥饌

安枝南兵衛  
小野宗三郎

素袍

### 祝

安枝南兵衛  
小野宗三郎

素袍

### 盥饌

小野宗三郎  
中山内膳

素袍

### 朝野儀節

#### 陳設祭器

#### 具牲

執事者再拜序立

祭主入門

#### 盥洗

階下揖登自東階至香案前上香

拜降神酌

#### 酒一揖

離拜位東面立

奠茶

具饌

詣香案

#### 前跪上香

奠三獻

薦帛

諸執事皆跪

祝讀

#### 祝曰

維

#### 元祿二年歲次己巳四月丁卯朔越十八日甲申參

議從三位兼行右近衛權中將源朝臣光一遣

臣白井信胤致祭于

明故徵士文恭朱先生之靈歲序遷易諱曰復臨不  
勝感愴敢以清酌庶羞之奠祇致祭事尚

饗

讀畢 諸執事皆起立 俯伏拜興拜興平身 下  
堂階下揖 樊祝瘞帛 執事皆揖 礼畢

元祿三年庚午四月十八日巳卯  
上乃使藤井德昭代詣先生祠堂修祭

執事

陳設

安積角兵衛

小野宗三郎

布衣

素袍

盥洗

淺沼四郎八  
服部新八

素袍

司爵

佐介三郎  
中村新八

布衣

司帛

津田兵亮

布衣

傳饌傳爵

林原新左衛門  
朝比奈政之介

布衣

奠饌接爵接帛 吉弘左介

布衣

祝人

安積角兵衛

布衣

省牲監饌

小野宗三郎  
淺沼四郎八

布衣

儀節

陳設祭器 具牲

執事者鞠躬拜興拜興平身序

立入門盥洗

階下揖登自東階至香案前上香鞠

躬拜興拜興興拜興平身降神醉酒一揖

離拜位

東面立

奠茶 具饌

諸香案前跪上香

奠三

獻

薦帛

諸執事皆跪

讀祝畢

祝文如式如禮

字諸執事皆起立

俯伏興拜興拜興平身

下堂

階下揖

焚祝瘞帛

執事皆揖

禮畢

元祿四年辛未二月二十一日丁丑

公詣先生祠堂修祭

執事

陳設

安積角兵衛  
小野宗三郎

布衣

盥洗

淺沼四郎八  
服部野介

布衣

司爵

凌羽侍郎

布衣

司尊

鶴飼金平

布衣

司帛

津田兵允

布衣

傳饌傳爵

人見又左少  
渡邊宮内衛門

布衣

奠饌接爵接帛

中村秋八

布衣

祝

安積角兵衛

省牲監饌

小野堂三郎  
浅治四郎八  
服部所今

儀節

陳設祭器

具牴

執事者鞠躬拜興拜興拜興拜興平身序立

公入門盥洗

階下揖登自東階至香案前跪上香降神酌酒鞠躬拜興拜興拜興拜興平身

公離拜位東西立

奠茶

供饌

公詣香案前跪上香

奠三獻

薦帛

諸執事皆跪

祝讀祝曰

維

元祿四年歲次辛未春二月丁巳朔越二十有一日

丁丑正四位下右近衛權中將源朝臣綱一謹  
以清酌庶羞之奠致祭于

明故徵君文恭朱先生之靈曰嗚呼

先生德邵道淵義方行修懷宝遁世避戎棄桴我黃  
門君延為賓師隨以几杖敬如蓍龜問道闡幽  
學禮遵規奈何中壽天不憐遺前歲庚午冬月  
之孟我黃門君果懸車請綱一不肖嗣祚土命  
俯愧幹蠱仰賴餘慶嗚呼

先生既沒德音永絕無勝追慕酒觴是設尚

饗

讀畢

諸執事皆起立

公俯伏興拜興拜興平身

下堂階下揖

焚祝瘞帛

執事皆揖

禮畢

元祿四年辛未四月十八日癸酉

公使小山秀堅代詣先生祠堂修祭

公軒執事

陳設

安積角兵衛  
小野宗三郎  
淺沼四郎八

布衣

酒井三左衛  
浅邊宣四郎  
中村新八

素袍

盥洗

司爵

浅羽傳四郎  
津田兵菴

布衣

司尊

日置新六  
酒井三左衛

布衣

司帛

傳饌傳籌  
浅邊宣四郎

布衣

奠饌接爵接帛

中村新八  
布衣

布衣

祝

安積角兵衛

省牲監饌

小野宗三郎  
浅沼四郎八

儀節

陳設祭器

具牲

執事者鞠躬拜興拜興拜興拜興平身

序立

入門盥洗

階下揖登自東階至香案前跪上香降神酌酒鞠躬

拜興拜興拜興拜興平身

離拜位東面立

奠茶

供饌

詣香案前跪上香

奠三獻

薦帛

諸執事皆跪

祝讀祝曰

維

元祿四年歲次辛未四月丙辰朔越十八日癸酉正

四位下右近衛權中將源朝臣綱一遣臣小山

秀堅謹致祭于

明故徵士文恭朱先生之靈曰歲序遷易諱日復臨  
不勝感愴敢以清酌庶羞之奠祇致祭事尚

饗

讀畢

諸執事皆起立

俯伏興拜興拜興平身

下堂階下揖

焚祝瘞帛

執事皆揖

礼畢

元祿五年壬申四月十八日丁酉

公使白井忠左衛門信胤代詣先生祠堂修祭儀

節祝文一如前規

執事

安積角兵衛

布衣

小野宗三郎

素襖

陳設

淺沼四郎

日

八

服部聯介

日

元祿四郎

日

盥洗

鶴飼金平

布衣

司尊

浅羽健四郎

布衣

司壽

上彦四郎

日

司帛

津田允義

日

傳饌傳爵

中山内膳

日

木暮本康大夫

日

奠饌接爵接帛

中村助八

日

祝

安積角兵衛

日

省牲盥饌

安藤宗三郎

日

服部聯介

日

元祿六年癸酉四月十八日辛卯

公使朝比奈宇衛門泰雄代詣先生祠堂修祭儀  
節祝文一如前規

執事

陳設

安孫角無主  
ムツシロウハ

布衣

素襪

司豐

你有傳子

布衣

司尊

大串平身

日

司爵

上卷四仰

日

司帛

滿無差

日

傳饌

白井生絲衛門

日

傳爵

人足又左介

日

祝

安孫角無主

日

省牲監饌

ムツシロウハ  
ムツシロウハ

元祿七年甲戌四月十八日乙酉

公使大竹檀右衛門如衛代詣先生祠堂修祭儀

儀節祝文一如前規

執事

陳設

中村軒人 布衣

以次入素襪

少卿宗室子日

彼執物介

司鹽

你乃佐軍 布衣

司亨

大車平子日

司爵

上差里子 日

司帛

一弓又三色 日

司餚

主客僕役 口

司鈸

絳田市子日

司繢

絳田市子日

奠饌首、爵接帛 中村軒人 布衣

祝

你以次入

省牲監饌

你以次入  
少卿宗室子

彼執物介

元祐八年乙亥四月十八日己酉

公使松平源太恭寔代詒先生祠堂修祭儀節祝

文一如前規

陳設

少卿宗室子

布衣

素襪

司鬯 内有葛平 布衣

司尊 上彦四郎 日

司爵 猪肉椎平 日

司帛 羊毛綿今 日

代饋 各牛禮毛 日

代禽 家祭之酒日

奠饋 奠爵持帛

尸持紙人日

祝 多福角黍

省牲監饋 〔少卿官主〕

〔故祭所今〕

執事

元祿十年丁丑四月十八日丁卯

公使大竹櫓衛門如衛代詣先生祠堂修祭儀節

祝文一如先規 世子代拜至和也

執事

陳設

栗心便今 布衣

以酒四升 素襖

之器 宝物

破部 納今日

司鬯

猪肉椎平 布衣

司尊

青蹄兔食之

司爵

大宗大今

司帛

石舟注文

偶饌

既於伊父

偶爵

乞奉假矣

奠饌奠萬緜綉帛

既已深今

祝

匪多蔑大亨

省牲監饌

既於厥介

元祐十一年二月二十六日

西山公祭明

微君朱

先生之墓前一日執事者講習儀節掃墓除道點檢  
祭器設卓省牲黎明備三牲陳列菓饌庶品設庭燎

祝及諸執事就位序立

公晨出西山至瑞龍山憩

館著道服戴燕尾進至墓道盥洗參神就位鞠躬拜

興拜興平身

二拜詣香案前跪

上香降神

司爵奉爵自左司樽奉酒

注自右公

酌酒俯伏拜興興拜興平身

三拜

奠饌傳饌傳般饌一種

以奉飯羹索麪

奠饌公進至卓前行初獻禮

司爵奉爵司樽奉爵

取之奠于卓上

如前進自左奠酒進饌

傳饌傳般饌一稱奠之復位諸

執事皆跪祝讀祭文

公又進至卓前行亞就禮奠

酒進饌

奉爵酒注饌如初獻儀

行終獻禮奠酒進饌侑食

司樽奉酒

注自右公

奠茶復位一揖而出祝焚祭文礼畢

奉酒傳饌如初獻儀

陳設圖

執事

妣名男

祭文

維

元祿十一年歲次戊寅二月丙午朔越二十六日辛

未從三位前權中納言源朝臣光國謹呂潔牲

粢盛之奠致祭于明

徵君章水朱先生之墓曰嗚呼

先生德邵行潔才學優遭時屯蹇微辟不就慟哭有  
美  
志恢復無期矢心金石勵操冰霜流為海外艱  
苦萬狀保全衣冠始終一節幸稅駕於是邦得

生坡設醴于吾土胡斯文之不淑遽興云亡之歎鄉

閔遠隔一萬餘里

音容永違十有七年欽慕

精爽瞻戀

提海碧石椅碑勒文紀德冠昌明

徵君庶成宿昔之志稱曰

予朱子式彰景仰之誠時維仲春節屬清明灑掃營

域祇薦歲事焉

饗

墓祭禮畢遂登后土布席墓左設板其上陳設庶品

奠饌奠飯  
羹索麵

公就位俯伏降神

無參神儀司樽司爵

奉爵酒注進自左右

如上香酌酒俯伏拜興拜興拜興平身

三行初獻禮

前如祝祝祝祝祝祝

並如前但行初獻禮

前食奠一楫而出祝奠祝祝祝祝祝祝

並如前但無進饌侑

前食奠一楫而出祝奠祝祝祝祝祝祝

並如前但無進饌侑

陳設因多

祝文

維

元祿十一年歲次戊寅二月丙午朔越二十六日辛

未從三位前權中納言源朝臣光國敢昭告于土地之神躬修歲事於明徵君舜水朱先生之墓惟

時保佑實賴

神休敢以酒饌敬仲奠獻尚

饌

維

曰本貞享三年歲次丙寅秋九月壬午丙正四位止

左近衛權少將水戶嗣子源綱條謹以牲醴粢盛之奠致祭于

明故徵士文恭朱先生曰伏以乾坤鍾秀泰斗凝望冲襟潔履金玉其相錦心繡口追琢其章文行

朔越二十六日

下

才德莫之與京嘗聞其人今見

先生

明室之季日月失明北虜縱逆天地震驚賢良晦迹  
奸邪放橫嗚呼

先生遭時不祥慨然乘桴確乎離鄉孤身勁節萬  
里巨浪龍劍藏輝義氣如霜意忠毅冠志在清纓  
誓天枋得使胡少卿以古方今可謂同盟我以鄙  
猥取容大方亦嘗受教感斯至誠進道勵行庶幾  
有成夙志味遂

先生云亡形容永隔德音莫忘善告微忱謹詣

墓瑩巒峰青松獨旌忠貞漠々山雲益結愁情少  
牢在俎維鷩維剛黍稷登簠維旨維香祀物慕  
德觀羹覩膳洋洋

精霧

來格

來嘗尚

饗

致祭儀節

按此祝文今并魯府代言

